

令和2年8月12日

令和2年

第2回教育委員会臨時会会議録

大田区 池上会館

令和2年8月12日（水曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小黒仁史	教育長
三留利夫 委員	教育長職務代理者
弘瀬知江子 委員	
高橋幸子 委員	
深澤佳己 委員	
北内英章 委員	

2 出席職員（23名）

教育総務部長	玉川 一二
教育総務課長	政木 純也
教育施設担当課長	鈴木 龍一
副参事（教育地域力担当）	丹野 詩織
副参事（施設調整担当）	荒井 昭二
学務課長	柳沢 憲一
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	岩崎 政弘
副参事	早川 隆之
副参事（法務担当）	平栗 敬子
学校職員担当課長	池 一彦
教育センター所長	柿本 伸二
大田図書館長	長岡 誠
指導課 統括指導主事	木下 健太郎
指導課 統括指導主事	志賀 克哉
指導課 統括指導主事	古川 大輔
指導課 指導主事	中治 謙一
指導課 指導主事	今井 洋登
指導課 指導主事	山崎 大志
指導課 指導主事	秋山 亮
指導課 指導主事	辻 慎二
指導課 指導主事	折田 和宙
指導課 指導主事	南 博幸
指導課 指導主事	浅羽 宏美

3 日程

日程第1 令和3年度使用大田区立中学校教科用図書採択について

日程第2 「議案審議」

第35号議案 学校教育法附則第9条の規定に基づく令和3年度使用特別支援学級教科用図書採択について

第36号議案 令和3年度使用大田区立中学校教科用図書採択について

~~~~~  
(午後 2 時 00 分開会)

○教育長

第 2 回大田区教育委員会臨時会を開催いたします。

本日は、中学校教科用図書採択の審議を行いますので、大田区教育委員会会議規則第 14 条により、教科書採択関係職員も出席しております。

本日は傍聴希望者がおります。

大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは、禁止されております。ご協力よろしくお願ひします。

なお、新型コロナウイルス感染の拡大を防止するため、本日は、マスクをお持ちの方については、マスクの着用の上で審議を進めさせていただくとともに、効率的な会議運営にご理解とご協力をお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に深澤委員を指名いたします。

(「はい」との声あり)

○教育長

よろしくお願ひします。

続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、昨日の定例会に引き続き「令和 3 年度使用大田区立中学校教科用図書採択について」でございます。

○教育長

それでは、昨日の第 7 回定例会に引き続き、令和 3 年度使用大田区立中学校教科用図書採択の審議を行います。

昨日の定例会では、国語、書写、社会（地理）、社会（歴史）、社会（公民）、地図、数学の 7 種目について審議いたしました。

本日は、理科、音楽（一般）、音楽（器楽）、美術、保健体育、技術・家庭（技術）、技術・家庭（家庭）、英語、道徳の 9 種目について審議を行います。

それでは、初めに、理科について審議を行います。理科の発行者は 5 者あります。

委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

理科は、「東京書籍」を推薦いたします。どの出版社も、探究を意識した学習の流れ

になっています。

「東京書籍」では、導入には主体性を重視した問いかけ「レッツスタート」で始まります。

1年生では、探究の流れと教科書の使い方、「科学で調べていこう」では、探究の進め方がよく分かります。

1年生では、章の始めに「火山とはどのような山だろうか。私たちにどのような影響をあたえているだろうか。」と問いかけて、章末に同じ問いを繰り返す「Before&After」を設けています。学習の仕方や自分の考え方が、どのように変化したかをまとめることで振り返りができます。凸レンズによる虚像の見え方については、「ここがポイント」でまとめて練習問題を繰り返すことで定着していくと考えます。

1年生の第1章では、植物と動物との分類の基本的な考え方について、実習を通して学ぶことができます。

2年生の「動物の体を模型図で見てみよう」と「植物と動物の体を比べてみよう」は、比較することで多くのことを学ぶことができると考えます。

3年生の進化と多様性では、進化と遺伝の関係がよく分かりやすく分類されていると思いました。

また、「理科室の決まり」では、実験の上での安全・安心への配慮が細かくイラストで紹介されています。実験前・実験中・実験後の注意や、実験中に地震が起こった場合の注意事項がチェック方式になっていて、使い勝手が良いと思いました。

以上から、理科は東京書籍を推薦いたしました。

#### ○深澤委員

深澤でございます。

私は、「大日本図書」を推薦します。その理由は2つあります。

大田区では、学習効果測定における理科の平均正答率が平成20年から目標値よりも低い結果となっていました。しかし、平成29年度から理科教育指導員を配置し、理科の実験や観察における授業力向上に向けて理科教員の意識を高めたことで、平成30年正答率が目標値を上回る結果となり、特に科学的な思考、表現において顕著な成果が見られたという報告を受けております。

そこで、今後も理科の実験や観察を中心とした、探究過程を通じて課題を解決したり、新たな課題を発見したりする経験を増加させていくことが重要であると考えられます。

「大日本」では、1つの観察ないしは実験が1ページで示され、最後に結果から考えようという欄があり、観察・実験から何が導き出されるかを自分で考える場面が用意されています。さらに、次のページには、結果の例を挙げ、結果から分かることを掲げています。こうした学習の一連の過程が理科の面白さ、有用さを認識することにつながっていくと考えられるので、良いと思いました。

2つ目は、「大日本」は読む力を養うことを意図しているという点です。

「大日本」は、各単元末に読解力問題を設定し、読解力を重視しています。読解力問題は、都立高校の入学試験が同様の傾向になっており、大学入試改革においても、知識を問う問題ではなく、設問を読み解き知識を活用していく問題となる傾向になっています。読

解力の低下が課題と言われる昨今において、読む力を養うことを重視するとともに、入試の傾向にも沿うものであるという点が良いと考えました。

以上の理由から、私は「大日本図書」を推薦いたします。

#### ○北内委員

北内です。

理科に関して、私は「東京書籍」を推薦します。

理由は、まず、見開き1ページでまとめられ、探究の流れが生徒にとって分かりやすく構成されています。また、図説と共にありまして、段階的に構成されています。それらの写真が系統的に掲載され、それぞれの写真も無駄がないです。生徒が興味を持つような図や写真が並んでいます。

また、各單元において、随所に考えるコーナーが設けられています。昨日も申し上げましたが、単に習うだけではなくて、自分で考えるところを5分、10分でも設けているのが良いと思います。

各単元の最後に、「学習内容の整理」、「確かめと応用」、「科学の本だな」というところで、復習して更に次のステップへ進むことで、より深い学びにつながる構成を行っています。

それから、デジタル教材が充実しています。自学学習がしやすいです。

具体的には、例えば、酸性とアルカリ性のところでは、非常に系統的に中間色を示して分かりやすいと思いました。それから、天気のところを見ますと、いろいろな雲の種類を系統的に多く載せていて、まず、気象の観測のから始まります。そこからだんだん雲の入れ替わりがあり、そして日本の周りの天気図を調べていきます。次に良いと思ったのは、寒冷前線の図というのを見開きで書いています。これは、後ろのところではペーパークラフトで3次元的に見られるようになっています。それで、実際に生徒たちにも、天気図と気象衛星ひまわりの画像を合わせて「天気予報をしてみましよう」という深い学びにつながっています。今回、天気を例にいたしました。ほかの單元でもそのような方法になっております。

以上から、私は「東京書籍」を推薦します。

#### ○高橋委員

高橋です。

理科は、「大日本」を選びました。

單元ごとの写真がきれいで、興味、関心を持てます。

1年生は「問題をみつける」、2年生は「計画を立てる」・「結果から考える」、3年生は「振り返ろう」と探究の学習を明確にしています。

「学習の見通しをもとう」、「課題をつかもう」、「観察や実験をしよう」、「結果をもとに考えよう」と丁寧に示されており、分かりやすく学べます。

3年生に追加されたダニエル電池については、安全に実験ができる手法が示され、また実験は図と写真で説明し、結果が分かりやすくなる工夫がされています。

単元の終わりの探究活動では、学習したことを活用できるページがあり、まとめ、單元

末問題、読解力問題はキーワードがあり、身に付いた知識を確認、活用できます。

資料として、「発展」は、知的好奇心や学習を探究心に応じて深められます。中には、チバニアンが紹介されています。

「くらしの中の理科」は、学習内容が日常の生活や社会でどのように活用されているか紹介し、資料を基に学びを広げられます。

「科学のあしあと」は、科学の歴史や科学者などに関わる資料として学ぶことができます。

巻末には、これまで学習したこと、これから学習すること、探究のすすめ方、ノートやレポートの書き方、「自由研究にチャレンジしよう!」、「行ってみよう科学館・博物館」、「理科室のきまり」などの参考になる資料が多くありました。

3年生の巻末に、「学習のまとめ」として3年間の学習のまとめがあり、確認ができます。

以上の点から、「大日本」を推薦します。

## ○三留委員

三留でございます。

理科は、「東書」を推薦します。

実験・観察を伴う理科は、全ての者が問題解決的学習に力点を置いています。

その中で、「東書」は、冒頭で課題から結論、振り返りに至る学習過程について、イラストを使って分かりやすく説明しています。

また、考察を進める上でのポイント、議論の仕方、発表の仕方についても触れていますが、主体的で深い学びをするためには大切なことと思いました。

各ページは、探究の流れを意識した構成になっており、見通しを持った授業づくりにつながります。「レッツスタート」という囲みから始まり、既習経験や生活体験などに基づく問題発見につなげているのが、「東書」の大きな特色です。生徒の気づきや興味を課題につなげるようにしていくことは、大切なことと思っています。

学校意見では、「問題の提起、課題の設定、内容、まとめの流れになっており使いやすい」、「探究的授業が行われやすい構成になっている」というような使いやすさに関わる指摘が多くありました。

区民意見でも「課題、予想、実験・観察、結果・考察、結論の一連の流れが分かりやすい」、「内容がつかみやすい」、「学びやすさに関わる工夫を感じた」など、使いやすさに関わる多くの指摘がありました。

私も見開き1時間で見通せる活用のしやすさを感じます。

課題設定、仮説・検証の後には、「課題に対する結論を表現しよう」があります。理科学習では、自分の考えで結論を文章でまとめることは極めて大切なことです。章の最後に、例文が示されているのも編集の工夫と思いました。

「学びを生かして考えよう」という学んだことの活用を促すコーナーは、視点を示して、発展的に考えさせるようにしています。

実験・観察のページでは、目的がきちんと書かれており、実験の説明も分かりやすいと思いました。準備するもののチェック欄があるのも良いです。

また、キャラクターを使った表現が多彩で、対話的な学びの例や学びの視点を示しています。

多くのページの側注にある「科学のミカタ」には、理科の見方・考え方に関わることがキャラクターのセリフで示されています。

章末には、「from Japan 世界につながる科学」という読み物資料があり、生徒に興味深い科学的話題が載せられています。

また、「つながる科学」というコラムが、多くのページにあります。身近な題材を扱ったり、自然事象などについて興味を引く話材が取り上げられたりしています。

「東書」の理科に関わるデジタルコンテンツは、理解を深める動画やシミュレーションが多く、学習の補完になるとも思いました。「確かめと応用」の問題は、学んだことを押さえたり、考えを広げられたりすることができる内容だと思えます。

また、「東書」だけA4スリム判という新しい判になっています。最初は、どうかと思ったのですが、ノートと一緒に置くのに都合がよかったり、上下に大きくなったことで、図版、写真等がダイナミックになったりする良さがあります。

そのほか、環境、資源、エネルギー等、SDGsに関わることが意識して載せられていたり、安全に対する記載もきちんとできていたりしていることも感じました。

以上が、「東書」を推薦する理由となります。

## ○教育長

それでは、私は、理科は「東書」が良いと思えますが、大田区には、ものづくりの産業があり、理科教育の推進には「おおた教育ビジョン」でも重点施策として取り組んでいます。

理科において最も大切にしたいものの1つは、実験・観察です。実験・観察を通して、実際に試行錯誤しながら、自然や科学についての理解を深めていくことは、科学的な思考、実践力を育てていく上でとても大切であると考えています。「東書」は、実験・観察の掲載例が最も多く、生徒たちが1単位時間の中で、効果的に実験・観察を進めていくことができると思いました。

また、「東書」は、縦長の判になっていますが、このことによって、写真資料や実験観察の方法などが分かりやすく整理されて表示されております。また、情報量もその分多く、生徒たちにとって分かりやすい教科書になっていると思いました。

大田区の学習効果測定において、理科の期待正答率を超えた生徒の割合が上昇傾向にあり、学力の向上が見られます。これは、理科支援員などの配置により、実験・観察など理科の授業が充実してきたから、その成果ではないかと思っております。

理科の実験・観察を行うためには、そのための教材研究や準備などが必要ですが、現在使用している「東書」は、学校意見でも評価されており、コロナ禍においても、理科の授業を充実させるために、現在使用している「東書」を使用することが適当ではないかと思えます。

それでは、理科の審議のまとめをいたします。

審議では、「大日本」を評価する意見もございましたが、「東書」を評価する意見が多かったように思います。

理科については、「東書」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○教育長

それでは、理科につきましては、「東書」といたします。

続いて、音楽（一般）について審議します。音楽（一般）の発行者は2者あります。

皆様のご意見をお願いいたします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

音楽（一般）は、「教芸」を推薦いたします。

どちらの教科書にも、目次に学習内容と各種教材との関連が書かれています。

「教芸」では、巻頭に、1年は野村萬斎氏、2・3年上には松任谷由美氏、2・3年下には谷川俊太郎氏などの各界の方々からのメッセージが掲載されていて、大変興味が湧く内容となっています。

1年生の初めに「世界を繋ぐもの」で、いろいろな国のアーティスト、楽器などが紹介されていて、これも興味が引くものと思います。

1年生の8ページに学びの地図があり、1年間で学習する内容がよく分かるようになっていて使いやすいと思いました。

左のページには学習目標、下に音楽を形づくっている要素、題名の下に活動文が書かれていて分かりやすくなっています。学習のポイントとなる話し合い活動を充実させるために、自分の考えをワークシートに書き込み、整理しながら学習を進めるということができるようになっています。

全体を通し、合唱曲が多く充実していると思いました。選曲は、「花」、「早春賦」など親しみやすく、「Amazing Grace」、「Let it Be」、「翼をください」など、様々なジャンルから選んでいます。

生活の中の音や音楽が、生活や社会、文化とどのように関わり、どのような意味や価値を持つのかを考えるための工夫がされていると思います。

特に、震災からの復興を願って歌い継がれている曲は、感動を受けました。

3年生の「ルールを守って音楽を楽しもう！」では、著作権について漫画で解説してあって、とても分かりやすいと思いました。

以上から、私は、音楽（一般）は「教芸」を推薦いたします。

#### ○深澤委員

深澤です。

私は、音楽（一般）について、「教芸」を推薦いたします。その理由は、3つあります。

1つ目は、歌唱の選曲が、中学生に親しみやすいものが多く、合唱も充実しているとい



うところでは。

2つ目は、ワークシートが充実しており、音楽の時間を通して考えたことをまとめることができるところが良いと思いました。

3つ目は、学校意見でもありましたが、中学生の発達段階に応じた内容で使いやすいという意見があり、私もそのように考えたということで、音楽（一般）については、「教芸」を推薦したいと思っております。

以上です。

#### ○北内委員

北内です。

音楽（一般）については、「教育芸術社」を推薦します。

生徒が親しみやすい楽曲が多く掲載されており、自然に学びを広げることができると思いました。

また、合唱コンクールを意識した指揮の学習を、中学3年間を通して指導されています。

さらに、巻頭をはじめ、著名人からの言葉が素晴らしいと思いました。

具体的には、「涙そうそう」など、みんな知っている曲が載せられています。それから、巻頭のところとか、例えば松任谷由実さんから「みんな違っていいんだよ」という言葉が載せられています。伝統的なところでは、和楽器について、歌舞伎の演奏の写真が非常に分かりやすいと、私は思いました。

以上から、私は、「教育芸術社」を推薦しました。

#### ○高橋委員

高橋です。

音楽（一般）は、「教芸」を選びました。

シンプルで、写真、図、イラストなどで分かりやすい構成となっています。

巻頭ページには、1年は「伝統をつなぐ」野村萬斎氏、2・3年上は「14歳の時間」松任谷由実氏、2・3年下では「詩人と作曲家」谷川俊太郎氏、木下牧子氏が音楽と芸術と自身との関わりについて語ったメッセージがあり、興味、関心を引く内容です。

歌唱教材は、親しみやすいものが多く、様々なジャンルの選曲がされていて、充実しています。

「指揮をしてみよう」では、全学年で扱われ、指揮をするときのポイント、指揮者のコメントがあり、学年の発達段階に応じて、拍子や速度を変えて学習することができます。

「深めよう音楽」では、話し合い活動を充実させるため、自分の考えや感じたことを書き込む欄があります。

「音楽の約束」は、音楽の基礎が分かりやすく掲載され、理解を深めることができます。

「生活や社会の中の音楽」では、音や音楽が生活、社会、文化の中でどのような意味や価値を持つのかを考えられます。

以上の点から、「教芸」を推薦します。

### ○三留委員

音楽（一般）は、「教芸」を推薦いたします。

音楽は、「教芸」と「教出」の2者で、どちらも目次の次のページに学習内容と各教材との関連を掲載しています。

「教芸」は、音楽科で身につける3つの資質能力と、それに対応する学習内容や教材を図示しています。このページからは、1年間で学ぶ学習内容もよく分かり、生徒が学習の見通しを持つことにもつながります。

「教芸」は、ほとんどの題材に課題が示されています。課題に書かれている内容から、子どもたちが、何ができるようになっていけばよいか意識させて学習に取り組めるようにしようとする意図を感じます。

また、生徒同士の交流にもつながる、自分の考えや感じたことを書き込む欄が充実しています。

歌唱に関わる活動の記述も分かりやすく、適切と感じました。

1年と2・3年上にある「深めよう音楽」では、生徒の歌唱などについて、活動の具体的な手順が示されています。

2・3年上、「深めよう音楽」のコーナーの中で、混声三部合唱における一人一人の生徒の役割について書かれているページがあります。ここでは、パートの役割や重なり方を確かめさせ、どのような点を工夫したらよいか表にまとめさせるようにしています。

各学年には、「My Voice!」のコーナーがあって、上手に歌うためのポイントや工夫を考えるための視点を示しています。こうした記述は、思考力・判断力の育成とともに、生徒の技量の習熟のためにも大切なことと思いました。

指揮については、全学年、段階に即して、見開き1ページで丁寧に説明しています。

大田区の中学校は、合唱コンクールが盛んで、音楽教育のみならず、仲間意識を醸成するなど学級づくりにも成果を上げています。このような点からも、指揮や合唱の仕方について理解と習熟を図ることは、大切なこととっております。

また、「教芸」は、日本の伝統的音楽の紹介にも重点を置いていると感じました。雅楽、歌舞伎、能・文楽などを扱うページは、写真資料が充実していて、興味を引きまます。郷土芸能を扱うページも、各学年にあり、郷土の音楽・芸能に関心を持たせようとしています。

学習指導要領に示された音楽科の目標は、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質能力を育成することですが、このことに関連して、「教芸」では、全学年に「生活や社会の中の音楽」のページがあります。学年ごとにテーマが設定されていて、音楽の社会や生活の中での価値を感じ取ることができます。

2次元バーコードからは、教材に関わる動画等が豊富にありました。

「教芸」は、全体的に親しみやすい楽曲を選曲し、分かりやすい構成になっていると感じ、推薦することといたしました。

### ○教育長

私も音楽（一般）は、「教芸」が良いと思いました。

まず、巻頭の様々な国の音楽を紹介したグラビアがありますが、「教芸」は、音楽が世界の人々の生活に根差した大切な文化であるという視点が良いと思いました。

学習で取り上げられている楽曲もポピュラーなものから、クラシック、歌曲に至るまで幅広く、音楽の豊かさを感じられるようになっているとも思いました。

中学校では、合唱コンクールが大切な行事として取り組まれています。「教芸」の1年生の教科書では、「My Voice!」というページがあって、歌う姿勢や呼吸、歌声づくりについて分かりやすく示しています。その中でも、声の出る仕組みについて図解しているのが良いと思いました。

中学生になると、そのような機能的な知識を基に、発声をきれいなものにしていくことも効果的だと考えました。

以上、私も「教芸」が良いということになりました。

それでは、審議のまとめをいたします。

音楽（一般）については、「教芸」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

#### ○教育長

それでは、音楽（一般）については、「教芸」といたします。

続いて、音楽（器楽）について審議します。音楽（器楽）の発行者は2者あります。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

器楽に関しても、やはり音楽（一般）と同様、「教芸」を推薦いたします。

本は糸中綴じ方式を採用していて、本を机や楽譜台に置いたときに、きちんと開いて自然に閉じることのないように工夫されています。

巻頭には、「ピアノで語るということ」と題して、ピアニストの反田恭平氏のメッセージが寄せられています。

「器楽と人」では、世界中の楽器が載っています。

選曲は、クラシックから映画音楽、テレビ番組のテーマ曲など幅広く、生徒の興味を引く工夫がされています。

アルトリコーダーの学習では、基本奏法の分量が多く「LESSON1」から「LESSON4」まで15曲掲載されて、充実した内容で段階的に学習ができるようになっていると思います。

各楽器のページでは、演奏のコツについてコラム形式で説明してありました。奏法の写真が多く、いろいろな角度から撮影されているので分かりやすいと思いました。

冒頭ページの右下には、2次元バーコードが載っていて、演奏家のプロフィールをまとめたサイトや本人のホームページにアクセスできますので、興味が持てると思います。

「夏の思い出」のコラムには自然保護の原点の地、「箏」では姿勢と礼儀のコラムが載っていて、大変ためになりました。

巻末には、リコーダーの運指表やギターやキーボードのコード表が掲載されていて、練習の際に活用できると思いました。

また、楽器図鑑には、写真と名称が書かれていて、日本音楽の楽器編成も興味を持って楽しむことができる教材であると思えます。

以上から、器楽に関しては、「教芸」を推薦いたします。

#### ○深澤委員

深澤です。

私は、器楽合奏について「教芸」を推薦します。その理由は3つあります。

1つ目は、糸とじの製本であるために、楽器を演奏するときにページが閉じてしまう心配が軽減されるということです。

2つ目は、アンサンブルで、クラシックから子どもたちになじみのある「魔女の宅急便」や「美女と野獣」など、幅広いジャンルの曲を楽しむことができるという点です。

3つ目は、リコーダー、ギター等の楽器の姿勢と構え方が分かりやすく載っていること、また練習曲が初心者にも分かりやすく楽しい曲であるという点です。

以上の理由から、器楽合奏については「教芸」を推薦します。

#### ○北内委員

北内です。

器楽合奏に関しては、「教育芸術社」を推薦します。

理由は、生徒が親しみやすい楽曲を掲載して、自然に学ぶことができると感じました。

また、アルトリコーダーを段階的に練習し、適切な楽曲を吹き通すことで、最終的に生徒が達成感を味わえる構成になっていると考えました。

さらに、巻頭を初め著名人からの言葉が素晴らしいと思えました。

以上の理由から、「教育芸術社」を推薦しました。

#### ○高橋委員

高橋です。

音楽器楽合奏は、「教芸」を選びました。

巻頭の「ピアノで語るという事」では、ピアニストのメッセージが掲載され、音楽に親しみを感じる内容です。

親しみやすい選曲がされていて、各楽器の奏法の基礎、基本を、段階を踏んで学ぶことができるので達成感につながると思います。

演奏のコツを分かりやすく説明し、奏法の写真数が多く様々な角度から撮影されているので、理解しやすいです。リコーダーも写真とイラストで丁寧に説明されていて、理解しやすいです。問いと答えの形式でより細かく説明されています。

資料として、「楽器でメロディ」は、様々な楽器でいろいろな旋律を演奏する取組があり、また「楽器の図鑑」は、世界の楽器を7つに分類して掲載されていて、興味深いものです。

「音楽の約束」は、音符や休符、速度に関するもの、演奏の仕方に音高の変化、音の強

弱、反復の仕方が一覧になっています。

「和楽器の音楽」は、部活動で取り組んでいる中学生を紹介し、インタビューもあり興味を持てる内容です。

巻末には、リコーダーの運指表、ギターの手帳表があり見やすく分かりやすくなっております。

製本が糸綴じ方式でページが自然にめくれることが少なく演奏できます。

以上の点から、「教芸」を推薦します。

### ○三留委員

音楽器楽合奏は、2者のうち「教芸」を推薦いたします。

全体的に親しみやすい選曲で、生徒の興味を引き、意欲を促す構成になっているように感じました。

冒頭には、中学生の器楽の学習内容が示してあり、効果的な表現をするためにどのような資質・能力を身に付ければよいか示唆しているところがあります。音楽を形作っている要素が示されていることも必要なことと思いました。

2者のリコーダーを扱うページを比べましたが、「教芸」は4ページにわたって奏法の説明について丁寧に解説されています。学習の初めに「リコーダー演奏による名曲の鑑賞」があり、意欲付けを図るには良いと思いました。さらに、「LESSON1」で様々な奏法の紹介をし、少しずつレベルを上げていく構成です。個々の生徒の習熟を無理なく図るようになっていると感じました。

また、「教芸」は基本奏法の分量が多く、「LESSON1」、「LESSON2」、「LESSON3」というように段階的に取り上げるページ構成も良いと思いました。現場の教師からも、「平易ながらもボリュームのある曲を吹き通すようになるので、生徒が達成感を味わえる」という声が聞かれました。

アンサンブル曲は、クラシック、映画音楽、テレビ番組のテーマ曲、人気音楽プレイヤーの曲など、生徒になじみの深い多様なジャンルから選曲され、生徒に親しみやすく興味を持って学習を進めることができると考えました。

琴や三味線など各楽器の奏法が様々な角度から写真で掲載されており、生徒が演奏する場合の参考になります。

また、深澤委員、高橋委員もおっしゃっていましたが、「教芸」は机や譜面台に置いたときに開きをよくし、演奏中にめくり上がりにくくするように糸でとじる製本をしています。現場の教師から、「ページが自然にめくれることが少なく、演奏に集中して取り組める。」という声が聞かれました。

以上、総合して、器楽合奏は「教芸」を推薦します。

### ○教育長

私も器楽は、「教芸」が良いと思いました。

器楽の中で、リコーダーは小学校3年生から演奏しています。中学校でのリコーダーの演奏については、アルト笛も入り、より美しい音色やハーモニーを目指して演奏に取り組んでいくことが大切になると考えております。

「教芸」では、リコーダーの演奏で大切なタンギングについて、丁寧に指導できるように思いました。舌の使い方が図や解説、「tu、tu」という音声表示など、丁寧に分かりやすいと思いました。また、「LESSON1」から「LESSON4」まで技能を高めていくプログラムも丁寧に良いと思いました。小学校で学んだ演奏技術を確実に高めていくことができると思いました。

また、大田区では、和楽器の演奏体験も大切にしていますが、「教芸」は琴、三味線、篠笛、尺八、太鼓など、写真や図解を入れて分かりやすく解説してあると思いました。

取り上げられている楽曲もスメタナの「モルダウ」など、様々な楽器に触れて演奏を楽しむ内容になっていると思いました。

それでは、審議のまとめをいたします。

音楽（器楽）については、「教芸」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

#### ○教育長

それでは、音楽（器楽）については、「教芸」といたします。

続いて、美術について審議いたします。美術の発行者は3者あります。

委員の皆様、ご意見をお願いします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

美術は「日文」を推薦します。

「日文」は、A4ワイド判で3冊に分かれていて、どれも大きく見やすくなっています。

美術1の巻頭のオリエンテーションでは、スタジオジブリ「となりのトトロ」の背景図や松任谷由美氏の美術との出会いについて掲載されていました。

美術2・3上では、ゴッホやモネの原寸大の図版と岡本太郎氏の言葉、美術2・3下では、「サグラダ・ファミリア」の図版と井浦新氏の言葉が掲載されていて、美術から何を学ぶのかというのを伝えていました。「サグラダ・ファミリア」は、近くから見るのではないので、感動して見ました。

巻末の「学びを支える資料」では、写真の撮影方法や動画の作り方について説明が載っていました。

紙面を最大限に生かした迫力のある原寸大鑑賞図版「真珠の耳飾りの少女」、「火焰型土器」など7点が載っていました。「火焰型土器」は造形美に圧倒されるような思いでした。

また、葛飾北斎の浮世絵「神奈川沖浪裏」では、2色の藍の色の違いを楽しむことができ、喜多川歌麿の「当時三美人」では、丹念に彫られた髪の毛一本一本の線まで見ることができ、彫り師の素晴らしい技術に圧倒されました。

美術の教科書はまさにこれだと言いたいように思います。この感動を大田区の中学生に

も味わっていただきたいと思い、この教科書を推薦しました。

最後に、大田区に關係する「視点の冒険」で浮世絵の「はねたのわたし辨天の社」が掲載されていました。2次元コードも豊富で、開くと学習を深めるための動画や作品のスライドショーなどを見ることができ、家庭学習にも利用できると考えました。

以上から、「日文」を推薦いたします。

#### ○深澤委員

深澤です。

美術作品や美術文化の鑑賞という点では、「日文」と「光村」が良いと思いましたが、生徒が自ら表現するという造形的な面においては「光村」が良いと考えましたので、私は「光村図書」を推薦いたします。

まず、作品の鑑賞という点では、「日文」も「光村」も日本の作品、西洋の作品共に原寸大で掲載されているものがあり、どちらも作品を間近で見ているような錯覚を起こすほど美しい印刷で掲載されており、素晴らしいと思いました。

その中で、「光村」は「最後の晚餐」、「富嶽三六景」の作品について2次元バーコードで作品の解説をし、その他著名な作品についても、作品を見るとき視点を示していて、生徒が作品に興味を持って鑑賞する工夫がされている点が良いと思いました。

次に、生徒が自ら表現するという点ですが、「光村図書」は1年生の美術導入において、表現をするために大切な着眼点として、「1 触った感覚を描く」、「2 思い出を重ねて描く」、「3 美しいと思ったものを描く」、「4 愛着のあるものを描く」という4つの視点を示し、実際に中学生が書いている様子を描き始めから時系列を追って完成まで示している点が、生徒にとって参考にも刺激にもなり大変良いと思しました。そのような工夫は、粘土や他の材料を使う場合にもされていました。

また、子供の頃から親しんでいると思われる、エリックカールの青虫が完成するまでの描き方を時系列で示したり、「最後の晚餐」の絵の前のページにトレーシングペーパーを挟み、その絵の特徴である一点透視図法を実際に体験することができたり、生徒たちの興味を引き出すための工夫が多々なされているところが良いと思しました。

以上から、私は「光村図書」を推薦いたします。

#### ○北内委員

北内です。

美術に関しては、「日本文教出版」を推薦します。

作品、内容が充実しており、生徒が自然に学び、鑑賞を広げることができると思しました。また、作品の一つ一つが大きく、印刷の発色が鮮明です。情報量も適切と感じました。文字数が多過ぎず、少な過ぎず適切な印象を受けました。さらに、見開き図が素晴らしいと感じました。

それから、「最後の晚餐」をただ示すだけではなくて、どこまで修復すべきかを生徒に考えさせる内容になっています。

見開き図で特に素晴らしいと思ったのは、尾形光琳の「燕子花図」です。これは、屏風なのですが、両方に折り曲げてうまく工夫されています。

以上から、「日文」を推薦します。

#### ○高橋委員

高橋です。

美術は、「光村」を選びました。

資料のレイアウトがすっきりしていて見やすいです。

「みんなの工夫」で生徒作品の紹介と作者の言葉があり、描く工程の紹介、制作の様子など、実際の制作過程の写真があり、自分の表現に生かすことができます。

「美術ってなんだろう？」では、小学校の図画工作から中学校の美術の説明があり、スムーズな学習につながると思います。

巻頭には、「うつくしい！」の詩に合わせて生徒の撮影した写真とコメントからも美について考えさせています。

学習の目標は、鑑賞の仕方、表現（発想・構想）としています。

1年の「版で表す美しさ」、2・3年の「絵巻物と漫画」では、和紙調のページがあり、実際の紙の感覚を知ることができ、トレーシングペーパーのページも使い方が学習でき関心を持てます。

学習の内容として、1年の「シンボルマークの水引」については、伝統工芸品として興味深いものでした。

「自然の形や色を見つめて」は、目と手で感じ取る材料や用具の使い方を工夫します。

「心ひかれるこの風景」は視線の捉え方を示し、「デザインってなんだろう」は朝起きてから寝るまで目にするもののデザインについて考えます。2・3年では、「墨で描く楽しさ」は様々な効果を試す方法、「空想の世界へようこそ」は想像を自由に膨らませ空想の世界を描こうなど、丁寧な説明がされています。「メッセージを伝える」では、ポスター作りの活動をします。

学習を支える資料として、材料と用具、描き方、版画の楽しみ、文字のデザイン、「発想を広げる」では方法、金属、石でつくる加工の紹介、「材料の可能性」では廃材、布、糸を使うことが掲載され、色の組合せ、日本の伝統色、仏像、美術史年表など発想・構想の資料が充実しています。

以上の点から「光村」を推薦します。

#### ○三留委員

美術は、「日文」を推薦します。

テキストは、3者出されていますが、それぞれの者の冒頭ページは、特色ある題材を示し、美術の学習へいざなうような構成になっています。

その中で、「日文」は、1年の冒頭ページの「美術との出会い」で、アニメーションの背景から風景を見つめ直すという、子どもの興味を引く題材を扱っていると思いました。2・3年の上下巻でも、それぞれ、「学びの実感と広がり」、「学びの探究と未来」というテーマで、ゴッホとモネの作品の原寸大の一部や、ガウディの「サグラダ・ファミリア」を掲載し、裏ページに解説を入れるなど、子どもの動機づけを促すような内容となっています。また、岡本太郎らの「学びの言葉」が載せられていますが、それぞれに訴える



ものがあると感じました。

1年では、「成長地図」というタイトルで、3年間の概観が示されていて、どの段階で、どんな取組をするのか分かるようになっていきます。

また、3者とも各見開きのタイトルの近くに、作品作りの投げかけの文章がありますが、「日文」のものは、作品を作る上で誘われる文章が多いと感じました。どの者も各題材に「学びの目標」が付けられておりますが、「日文」は全てに「造形的見方を豊かにする視点や技能に関する目標」、「発想や構想・鑑賞に関する目標」、「主体的に学習に取り組むための目標」がきちんと示されており、内容も適切と感じました。

また、「日文」は、各ページの例示作品の内容が精選されていて、囲みとなっている造形的視点もポイントを押さえており、学習を広げ深めるものになっていると感じます。

各者、鑑賞のページとして、内外の作品を折り込みページで紹介しています。「日文」は、観音開きページの構成にも工夫があると感じました。例えば、2・3年上では、浮世絵の作品を大きく見せ、前後のページで浮世絵や作品の解説、製作工程を記しています。北斎の「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」も原寸大で載せられており、区民意見にもその鮮明さに係る意見が幾つかありました。表紙の作品を含め、鑑賞のための作品は、全体的に迫力があり見応えを感じました。

巻末は、学びを支える資料として、各者、様々な記述があります。「日文」は、鑑賞に関する記述が多くあります。岡本太郎の「太陽の塔」や原寸大の「火焰式土器」などを取り上げており、生徒にとってもインパクトがある表示と思いました。

美術の制作に当たっては、発想・構想が重要になりますが、1年の教科書でも「発想・構想の手だて」が巻末資料に載せられていて、構想を含めた製作の流れがよく書けています。さらに、アーティストの構想の例を紹介し、日常生活の中からアイデアを導き出すヒントとなるようにしています。

また、「日文」だけが、唯一3分冊になっています。他の2者は、学習指導要領の内容が第1学年と第2学年及び第3学年に分かれている関係で2分冊になっているのに対して、日文は「1年」、「2・3年上」、「2・3年下」の3分冊になっています。学年ごとにも使うことができ、3分冊が使いやすいとも思いました。

以上が、「日文」を推薦する理由になります。

## ○教育長

私は、美術は「日文」が良いと思いました。

「日文」は、教科書の判が大きく、その分掲載された美術作品に迫力があります。中学生にとって、美術作品の本物を鑑賞するという機会はあまりないと思いますが、美術の教科書で美術作品に触れることは、美術的な体験として大切なものであり、美術に対する感性を養う上で貴重なことであると思います。

旅行に行って、美術の教科書に載っていた本物の作品を見たときの感動は大きなものがあります。また、日頃、何げなく見ている光景やデザイン、品物が美術の教科書に載っていると、違った美しさが見えてくることもあります。いずれにしても、発見があり、見ていて楽しい美術の面白さ、多様さが分かる教科書という点で、「日文」には一日の長があるように思います。

また、2・3年上巻の12ページに、歌川広重の「江戸名所百景」の「はねたのわたし辨天の社」という浮世絵が掲載されています。これは、羽田の風景を描いたものです。日頃、日本の浮世絵などを見る機会が少ない大田区の中学生に、大田区における郷土の風景や美術作品に興味を持ってほしいと思います。

区の中学生の連合美術展などを見ると、中学生の美的なセンスの良さと技術の高さに驚きますが、美術の教科書においても美的な感性を高めてほしいという、そんな観点で「日文」が良いと思いました。

それでは、審議のまとめをいたします。

審議では、「光村」を評価する意見もございましたが、「日文」を評価する意見が多かったように思います。

したがって、美術については、「日文」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」のど声あり)

#### ○教育長

それでは、美術については、「日文」といたします。

それでは、ここで約5分間、3時5分まで休憩を取らせていただきます。

( 休 憩 )

#### ○教育長

それでは、再開いたします。

引き続きまして、保健体育について審議いたします。保健体育の発行者は4者あります。

委員の皆様、ご意見をお願いします。

#### ○弘瀬委員

保健体育は、「学研」を推薦いたします。

教科書自体は、横幅の広いA B判で、見やすい紙面になっていると思いました。

どの教科書も、基本的学習は「学習の目標」、導入で「課題をつかむ」、「考える・調べる」、本文で「まとめる・深める」と似たような構成になっていると思います。

この時期なので、感染症のところを中心に各出版社を比較してみました。

「学研」では、感染と感染症の定義がしっかりしていて、感染と発病が分かりやすく書かれています。様々な感染症の病原体が載っている中で、SARSウイルスが載っていました。現在流行している新型コロナウイルス(COVID-19)同様、王冠の形をしたウイルスです。

また、感染症の予防対策についても、分かりやすく表で示していました。そして、なぜ瞬く間に全世界に感染拡大を起こしたのか、その理由についても述べていました。

コロナ感染症に罹患した人たちが、ネット上で、不特定多数の人からいわれのないバツ

シングを受けていることも報じられていますが、「学研」では、人権上の配慮についても触れられているので、ぜひ教科書として取り上げていただきたいと考えました。

今、がんにかかる可能性は2人に1人とされています。そのくらい身近にがんの方がいるということです。2021年から、中学校でがん教育が全面実施されます。医療現場での取組事例を基に、がんと共に生きる、がん患者と共に生きることについてよく書かれていると思いました。

また、LGBTやSOGIについても取り上げられています。「性とどう向き合うか」、難しい問題ではありますが、中学生になると、個人差はありますが、考えるようになると思います。「学研」の教科書では、性についても上手に書かれていると思いました。

以上より、保健体育は「学研」を選びました。

#### ○深澤委員

私は、保健体育については、「大修館」を推薦いたします。

まず、体育についてですが、学習指導要領では、学習したことを実生活や実社会に生かし、豊かなスポーツライフを継続することができることを目標として掲げていますが、「大修館」では、1年生でスポーツの大切さ、スポーツを行う上で意欲、空間、仲間、時間が必要となることを示し、2年生では、中学生のうちに高めたい身体作り、中学生に起きやすい怪我、事故など、中学生に焦点を当てて展開しているので、その年齢に応じて体育を適切に行うことの大切さを身近に感じることができると思いました。

保健では、ストレスとの原因を「苦手な英語の試験が3日後にある」、「部活動の試合当日を迎えて」等、中学生に身近な具体例を引き合いに出して説明しているので、自分の経験に照らしてストレスを感じている状況を理解しやすいと思いました。また、その対処方法についても、視点を変えれば簡単に状況を改善できることを示している点が良いと思いました。

悩みの対処についてですが、ボクシング元世界王者の内藤大助さんの新聞抜粋記事が記載されていましたが、「悩み事は、一人で抱え込まないで誰かに相談しても格好悪いことではないんだよ」という内藤さんの言葉は重みがあり、この記事をぜひ中学生に読んでもらいたいと思いました。

以上から、私は保健体育については、「大修館」を推薦いたします。

#### ○北内委員

保健体育に関しては大変迷いましたが、「学研」を推薦いたします。

理由は、内容の選択が適切で、また図や絵が親しみやすいと感じました。

それから、自然災害、感染症、SDGs、オリンピック・パラリンピック、そしてLGBTについても詳しく説明が出ていました。

具体的なところでは、最初に、巻頭見開きで、いろいろなスポーツを載せて、スポーツの楽しさを伝えています。

また、自然災害のところでは、どのように備えるのか、「自然災害を知る」、「自然災害から身を守るために」ということで詳しく説明しています。また、SDGsに関しては

水の役割や、ごみの処理の仕方について分かりやすく解説していると思います。

さらに、休養と睡眠、喫煙と健康、薬物乱用と健康、飲酒と健康など、非常に身近に将来起こるかもしれないようなことを具体的に説明しています。

最後に、私が少し興味を持ったのが、「なぜ南極ではかぜにかかりにくいのですか」という問い掛けです。私、南極に3回行ったことがあり、どこからこの問題を仕入れたのか気になりました。

以上の理由から、「学研」を推薦しました。

#### ○高橋委員

保健体育は「学研」を選びました。

文章と資料、イラストが見やすく、分かりやすくなっています。

章ごとに色分けし、「課題をつかむ」、本文、「考える・調べる」、「まとめる・深める」と課題解決的な学習の進め方が示されています。

「情報サプリー」はミニ知識として、「JOB」は様々な職業や資格を紹介し、キャリア教育につながります。

口絵で、「スポーツで世界を一つに」として、体育スポーツの素晴らしさを写真と魅力を感じる一言で紹介し、学びをスタートします。「ひと」では、専門家からの中学生へのメッセージが掲載されており、興味を持って学習できる内容になっています。

自分と周りの人たちの心と体、そして、命を大切に学習では、いじめ、がん教育、性の多様性（LGBT）、感染症を学習します。

いじめでは、相談窓口や相談の方法について示され、がん教育では、「探究しようよ」で、「がんの治療」、「がんと共に生きる、がん患者と共に生きる」について説明されています。

性の多様性について、研究等を行っている方のコメントが掲載されていて、知識として良い学びになります。

感染症について、「探究しようよ」で、感染経路などの説明があり、正しい知識を身に付け予防と回復について考えられます。新型コロナウイルスによる感染が拡大している今日、関心のある学習だと思います。

コラムが充実していて、興味・関心が持てます。

以上の点から「学研」を推薦します。

#### ○三留委員

保健体育については、「東書」を推薦します。

今回の保健体育科の教科書で特徴的なのは、どの者も生徒が多様な学習活動により、主体的に取り組めるよう、紙面構成を工夫しているところにあります。

これまでの保健や体育理論の授業では、教師と生徒のやり取りの活動が多くありましたが、各社の学び方や教科書の使い方に関するページでは、ブレインストーミング、ロールプレイング、ディスカッションなど、様々な学び方が紹介されています。「東書」の記述にも学び方が詳しく載せられています。

また、課題解決の学習過程をどの者も明確に示しています。特に、今回、学習指導要領

で示された課題発見につながる各ページの記述が充実しています。「学研」、「大修館」は「課題をつかむ」、「大日本」は「つかもう」、「東書」は「見つける」というタイトルで、課題につながる話題提示や体験の掘り起こし、活動提示などを行っています。

その中で、私は、「東書」の「見つける」の提示内容が優れていると感じました。また、課題把握のための記述の後に、ねらいに結びつく学習課題を1つ明確に挙げているのは「東書」だけです。他の3者は、課題発見とは別の場所に、「今日の学習」として課題的なことを2つ挙げたり、語尾が「理解する」、「考える」などの目標提示になっていたりしており、課題追究の形としては弱いと感じました。

保健体育科の学習においては、1時間1課題学習の中で、課題を皆で明確化・共有化して取り組んでいくことが大切になると思っています。「東書」は、課題の同じ枠の中に、学習の手がかりとなるキーワードも示されています。

課題提示の後は、「課題解決」、「広げる」と、どのページも一貫して解決過程が明示されており、調査委員会報告にも、「授業の流れがつかみやすい」という評価があります。「広げる」については、発展的な取組の課題が載せられ、内容も関連性があり、良いと思いました。「広げる」は、「学級」、「生徒」の実態に応じて柔軟に取り扱いがよく、授業のしやすい教科書と感じました。

また、多くのページに「活用する」があり、学んだことを生かして、考えたり、判断したり、表現したりするようにしています。保健体育科における、諸能力の育成にもつながると思いました。

「東書」は、読み物資料が充実しています。章末資料は、絵、図やグラフなどを効果的に入れて、大切なことを分かりやすく伝えています。「睡眠はなぜ必要か」、「性の多様性」、「インターネットによるコミュニケーショントラブル」など、今の中学生に必要なことが多く記載されています。

また、高橋委員、弘瀬委員からも感染症についてのお話がありましたが、私も感染症に係わる各者の比較をしてみました。どの者も新型コロナウイルスについての記述は、採択時期の関係で載せられていませんが、関連する内容には触れられていました。それぞれの者で現状に生かせる内容が記述されていますが、「東書」は、感染症の広がり方や予防について分かりやすくまとめてあると思いました。

感染予防という視点で見ると、「密集した飛行機の中でせきをしている人」、「大人数いる食品売場」のイラストなどは使えると思いました。

また、100年前に起こった通称スペイン風邪については、新型コロナウイルス発生の状況に似ていて、その教訓が生かされていなかったと指摘する人もいます。「東書」は、囲みの中で、スペイン風邪が世界的に流行したとき、緊急事態宣言を出した都市と、そうでない都市の死亡者数の推移のグラフが資料で載せられ、生徒に考えさせるようにしています。

ただ、感染症に関わっては、小学校・中学校共に特別措置で、新型コロナウイルスに関わるものを入れて、各者が作り替えたり、別刷りを出したりするなどのことも必要と考えています。

そのほか、「東書」は、インターネットを活用した学習のコンテンツが豊富で、充実しており、調べを進めることで学習の深まりが期待できます。

何より、「東書」は文字数を抑えて、分かりやすい記述となっていると感じ、推薦することといたしました。

#### ○教育長

私は、保健体育は、「学研」が良いと思いました。

「大修館」は、スポーツ分野において専門性が高く、知識内容が豊富であると思いました。しかしながら、心も体も大きく成長し、変化する中学生には、保健の分野が分かりやすく、生徒自身が自分の心や体の成長に目を向け、主体的な学習に取り組みやすいという点では「学研」が良いと思いました。

現在、新型コロナウイルスの感染防止が生活の大きな課題になっています。生活の中での実践的な取組が必要です。「学研」の教科書には、「感染症とその予防」の単元がありますが、「感染症はどのように起こり、どうすれば予防できるか理解しよう」ということが学習目標として明確になっています。中学生なりに、主体的に感染症を予防する学習に取り組むことができる内容になっていると思いました。

また、感染に関わって、患者やその家族への偏見や差別等、人権上の問題が起こることも指摘されているなど、現在、中学生が具体的に感染症について考え、行動するために大切な学習であるのではないかと思います。

さらに、「学研」は、生殖機能の成熟や受精、妊娠など、中学生の心と体の変化について、発達段階に応じて詳しく、科学的に捉えて学習が進められるように配慮しているように思います。思春期を迎え、不安や葛藤を抱える中学生も多く、特にこのコロナ禍において、不安やストレスを抱える状況の中で、自分の心と体、その変化について主体的に学習を進められるのは、「学研」がふさわしいのではないかと思います。

それでは、審議のまとめをいたします。

審議では、「大修館」や「東書」を評価する意見もございましたが、「学研」を評価する意見が多かったように思います。

保健体育については、「学研」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○教育長

それでは、保健体育につきましては「学研」といたします。

続いて、技術・家庭（技術分野）について審議します。技術の発行者は3者あります。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

#### ○弘瀬委員

技術分野は、「開隆堂」を推薦しました。

内容的には、導入、基礎学習、発展、まとめの順になっています。

「東京書籍」では、「B 生物育成の技術」や「C エネルギー変換の技術」の内容割合が多く、「開隆堂」では「A 材料と加工の技術」が多くなっています。

「開隆堂」では、実習を行うときに、キャラクターの課題導入から科学的な原理、法則を踏まえて、課題を計画・設定し、具体的に実践するようになっていきます。問題解決、進め方が分かりやすくなっていて良いと思いました。全体に図やイラスト、写真などが豊富で、しかも、全てに通し番号が付けられているので、検索するにも大変便利でございます。

ページの下には「豆知識」で補足説明が載っていたり、ページの右上には工具の紹介などがあったり、便利で分かりやすくなっています。

どの教科書にも2次元バーコードがあり、コンテンツ、動画で詳しく見ることができて便利です。

「開隆堂」は、はプログラミングに対する本質的な理解を図るための基礎・基本に6ページ、プログラミングによる問題解決のためのページが22ページにわたって解説されていて、巻末資料にもプログラミングの基本的操作の解説が8ページ載っていました。このことから、プログラミング教育に対する力の入れ具合が、ほかの教科書に比べて大きいと感じました。

以上より、技術分野の教科書は、「開隆堂」を推薦いたしました。

#### ○深澤委員

私は、技術については、「開隆堂」を推薦いたします。その理由は3つあります。

1つ目は、材料と加工の技術の説明が詳細であること、動作のポイントが本文において示されていること、また2次元バーコードにおいて、言葉では表現しても伝わりにくい作業を動画で見ることができて、大変分かりやすいと思ったからです。

2つ目は、生物育成の技術の項目についてですが、実習例が全て問題の発見と課題の設定、計画、育成、評価、改善のプロセスをたどっていますが、社会や市場からの要求を基に問題提起が行われ、要求の解決が実習と結び付いているところが興味深いと思いました。実習についても、実際の作業についての2次元バーコードが充実しており、分かりやすかったと思います。

3つ目は、情報の技術の項目について、プログラミングの仕組みとその応用、日常使うWebやメール、SNSの仕組みが分かりやすく解説されていた点です。著作権についても説明がありましたが、著作物の利用の可否、著作物利用の手順、著作者への依頼方法についてまでも言及されていて、テレビの番組をDVDに録画して後日視聴するのは著作権保護の立場から許されるかを考える課題もあり、法的思考を養う学びがある点もあり、良いと思いました。

以上の理由から、私は、技術については「開隆堂」を推薦いたします。

#### ○北内委員

技術分野につきましては、「開隆堂」を推薦します。

実習例の図が大きく、生徒にも分かりやすいと感じました。また、単元ごとに「調べてみよう」、「考えてみよう」、「確認してみよう」、「話し合ってみよう」といった学習の流れが明確になっていました。学習を深めることができると感じました。

また、同世代の中学生が、ベビーカーのハンドルを離すと自動ロックするという特許を

取っていることが紹介されていました。子どもたちに良い刺激になると思いました。

情報、プログラミングについて非常に詳しく書かれていると思いました。特に、情報で重要なセキュリティやモラル、著作権について詳しく書かれていました。最近、AIやロボットの導入が産業界が進んでいますが、制御についても詳しく書かれています。

デジタル教材が充実していました。

特に、具体的なところで感心したのは、ものづくりのテーマで重要な、まず、安全点検があつて、それから、実際に問題解決の手順として、ものを作るとき、何かを便利にしたいからものを作ると思いますが、その手順を具体的に示しています。問題解決の流れ、問題の発見と課題の整理、詳細設計、さらに、コスト意識や環境負荷、社会的配慮などそういうところまで考えて示しています。これは、ものづくりの会社は皆やられていることだと思いますが、分かりやすく説明していると思いました。

以上から、「開隆堂」を推薦しました。

#### ○高橋委員

技術は、「開隆堂」を選びました。

動作のポイントが手元写真により理解でき、製作のための技能では、写真、イラスト、説明が見やすく、分かりやすくなっています。

材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報など、單元ごとの学習では、技術とともに、歴史についても学ぶことができます。

学習の目標を示し、参考、振り返りと学習の流れが明確になっていて、学習を深める活動がしやすいです。單元ごとに学習のまとめがあり、「学習をふり返ろう」、「技術のしくみ、工夫」、「学びを深めよう」と確認することができます。

「探究」のコーナーでは、学習内容を深めたり、広げたりしていくことができます。

学習内容に関して、ちょっと知っておきたい内容をページの下段に「豆知識」として掲載されており、またページの右上隅に工具紹介があり、参考になります。

資料として、コンピュータの基本操作、プログラミングが掲載されており、確認しながら学ぶことができます。

「日本各地の伝統的な技・材料・工芸マップ」は、興味、関心の持てる資料でした。

携帯電話の利用「こんな時どうする」は、トラブルに巻き込まれないために、便利だけど使い方次第で危険もあることを考えるページになっています。

以上の点から、「開隆堂」を推薦します。

#### ○三留委員

技術につきましては、「開隆堂」を推薦します。

技術は、生徒にとって、中学校で初めて履修する教科です。各者、単元の導入ページで、どのような学習をするのか文章で示しています。また、どの者も製作等に当たって、課題解決的な過程を重視した紙面構成を感じます。

「開隆堂」は、学習方法について書かれたページで、技術分野の学習の流れとして、「知識技能を身につける」、「問題から課題を考え、ものをつくることで解決する」、「学習したことを社会にいかす」を示し、4コマ漫画で、具体的に説明しています。



安全に関わるページでは、技術室、コンピュータ室、屋外のそれぞれについて、片観音開き3ページにわたって記述されております。さらに、VDT症候群、いわゆるコンピュータの長時間使用の弊害や、ヒヤリハット、いわゆるハインリッヒの法則、整理整頓と安全や効率との関係など大事な点を押さえていて、良いと思いました。

冒頭の、技術の役割に関するガイダンスが充実していると思いました。技術の役割や技術と生活・産業の関わりなどがよく分かります。日本の伝統工芸についての扱っているのも良いと思いました。その後、企業のものづくりにも触れており、大田区で使用する教科書としては大事な点だと思います。

内容順ですが、どの者も材料の加工の技術、生物育成の技術、エネルギー変換の技術、情報の技術になっていますが、「開隆堂」は、各内容のとびらのページで、それぞれの技術の歴史に触れています。技術を学ぶ上で大切なことだと思います。

材料加工の技術の内容においては、生徒が考えて制作するための図解が分かりやすく、様々な実習例が紹介されています。生物育成の技術の内容では、チューリップや稲などの多様な作物の実習例が問題解決の過程に沿って示されています。エネルギー変換の技術の内容においては、電気の利用、運動の利用、動きを変化させる仕組みなどについて、分かりやすく記述されていると感じました。情報の技術の内容においては、情報セキュリティ・モラル、知的財産の保護と活用についてきちんと記述されていることは、大事なことだと思います。デジタル情報、ネットワークの仕組みなども具体的に説明されています。

各内容のまとめでは、学び得たことを確認するチェック項目があります。さらに「学びを深めよう」ということで、発展的な投げかけと話題提供をしているのが良いと思います。

先程の北内委員の話にもありましたが、また巻末資料として、これからの生徒に必要なコンピュータの基本操作、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、プログラミングについて、具体的に分かりやすく解説されていると思います。

「参考」、「探究」、「発展」、「豆知識」のコラムの量も質も充実していると感じました。

以上が、「開隆堂」を推薦する理由です。

○教育長

私も技術分野は、「開隆堂」がよいと思いました。

本区において、教育委員会では、ものづくり教育の推進を大きな重要施策としています。

「開隆堂」のガイダンスには、「人間は材料や道具を使って「もの」を創り出す技術を開発し、様々な願いを実現してきた」とものづくり技術の役割を明確にして、学習を展開しています。

また、「企業のものづくりの流れ」という見開きのページでは、専門的な知識を生かし、社会の要望から課題を発見して、製品化するものづくりの課題解決の過程が分かりやすく示されています。

他の委員の方もおっしゃっていましたが、材料と加工の技術の領域では、加工の実践的な過程に即して、分かりやすく主体的に学習が進められるように工夫されていると感じま

した。

さらに、情報の技術という領域の指導がとても充実していると感じました。情報とコンピュータの学習では、アルゴリズムによるプログラミングの仕組みなど、情報技術の仕組みが分かりやすく学習できるようになっていると思いました。また、情報のデジタル化、情報ネットワークの仕組みなどが、丁寧に学べるようになっています。

大田区の学校では、ICT教育の推進を図っておりますが、その基盤となる情報の技術をしっかりと学べる内容になっています。

それでは、審議のまとめをしたいと思います。

技術・家庭（技術）については、「開隆堂」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか

（「はい」との声あり）

#### ○教育長

それでは、技術・家庭（技術）については、「開隆堂」といたします。

続いて、技術・家庭（家庭）について審議します。技術・家庭（家庭）の発行者は3者ございます。

委員の皆様、ご意見をお願いします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

家庭分野は、「開隆堂」を推薦いたします。

「家族・家庭と地域の生活」、そして次のページには、「家族の問題、自立と共生」がイラストで分かりやすく書いてありました。

家庭生活に関する題材は、家族・家庭の大切さが書かれていました。

調理実習では、「調理方法Q&A」で基礎的・基本的な知識、技能が定着するように工夫されています。特に調理の手順については、写真で詳しく示されていて、大変分かりやすく、動画でも見るできるので、自宅学習にも利用できると思いました。

調理の実習例の中に、アレルギー物質を含む食材には、黄色のマーカールが引いてあり、アナフィラキシーについても細かく説明されていて、注意が必要であることがよく分かるようになっていると思います。

また、技術面でも、やはり写真で詳細に分かるようになっているだけでなく、細かい部分は拡大写真を用いたり、イラストで分かりやすく説明されています。

日本各地の伝統文化、和食、郷土料理、民族、和服など豊富に取り上げられていて、日本独自の文化を参考にすることができます。

「体に入った栄養素のゆくえ」の図や「1日にとりたい食品と分量」を実物大の写真を使って見やすく、理解しやすいように工夫されています。特に、消化・吸収について十分理解できると思いました。

「開隆堂出版」と「東京書籍」のどちらも大きな差はないように感じましたが、より分かりやすい点から、開隆堂の方を選びました。

「先輩からのエール」は、生徒の夢を広げてくれる素晴らしいメッセージで感動しました。

消費生活に関する題材では、働いて収入を得ることに関して、実践に基づくものになっていて勉強になると思います。また、クレジットカードの仕組みやメリット・デメリットも図解を用いて説明していて大変勉強になりました。

以上のことから、家庭科は「開隆堂」を推薦します。

#### ○深澤委員

深澤です。

私は、家庭分野については、「開隆堂」を推薦いたします。その理由は2つあります。

1つ目は、家族・家庭生活の項目において、「持続可能な家庭生活を目指して」としている点です。

SDGsの視点は、他教科においても取り入れられていますが、人の生活の基本となる家庭科においてこそ、SDGsの視点が取り入れられるべきであると思います。

衣食住の項目において、食品ロス、世界の食料生産の問題などに言及していること、ファストファッションの裏側で大量のごみが発生していること、また低価格を追求するために劣悪な環境で働かされている人がいることの問題点を指摘していますが、これらは全て一貫してSDGsの視点から説明されています。これからの未来を担う中学生に、持続可能性の点から日常における消費を考えてもらいたいと思いました。

2つ目は、中学生に焦点を当てた説明が多いので、生徒がその分野に興味をもつであろうという点です。

例えば、食生活においては、中学生に必要な栄養素が記載された上で、栄養素の働きと6つの基礎食品群の説明に入っています。

また「消費生活、環境」の分野では、「中学生にとっての売買契約」というテーマで、中学生に起こりそうな事例を挙げて消費者被害について言及しています。被害に遭わないための予防について考える場面も提供されていますが、被害に遭ってしまった場合には、消費者センター、国民生活センターなど相談できる場所があること、クーリングオフで契約を解除できることなどを紹介して、一人で悩みを抱え込まないで相談してほしいということ具体的に示しているところが良いと思いました。

以上の理由から、私は、家庭科については「開隆堂」を推薦します。

#### ○北内委員

北内です。

家庭分野に関しては、「開隆堂」を推薦します。

理由は、SDGsについてかなり詳しく踏み込んでいることです。これからの社会、SDGs抜きに考えることはできません。さらに、「中学生の消費者被害」ということで、実際に生徒に起こりそうな例を挙げて解説しています。

具体的には、例えばSDGsに関しては、「持続可能な家庭生活」、「持続可能な食生活」、「持続可能な衣生活」、「持続可能な住生活」として、SDGsからそれぞれの考え方を説明しています。

それから、「災害から「いのちと生活」を守るために」のセクションを設けて説明しています。

以上から、「開隆堂」を推薦しました。

#### ○高橋委員

高橋です。

家庭は、「開隆堂」を選びました。

調理実習について写真、説明が分かりやすいです。日常食の調理の実習例ページで、アレルギー物質等を含む食材に分かりやすく黄色マーカーが引いてあり、配慮がされています。

「体に入った栄養素のゆくえ」は、消化・吸収について体のイラストを使って理解を深めることができます。また、食品成分表が充実しています。

「家族・家庭生活」は家族、幼児、高齢者について学び、考える学習です。

「参考」は、先輩からのエールが学習の参考になる内容です。

「豆知識」はページの下段、単元テーマごとの紹介写真を右ページの隅に掲載されており、参考になります。

「日本各地の郷土料理」は、写真一覧になっていて興味深いです。

「めざそう洗濯名人」は、実生活でも使えるようになります。

「生活を豊かにするものの製作」は、小学校での学びを振り返って製作の計画を立て、ファイルカバーなどの作り方を学習できます。

「製作の基礎・基本」は、手元の写真とイラストで分かりやすく説明されています。

「消費生活・環境」は、キャッシュレス化の説明があり、売買契約でいろいろな支払方法を学び、中学生の消費者被害とともにトラブルなども学習する大切な内容です。

「伝統文化を受け継ぎ生活にいかす」では、「日本全国の特徴ある伝統的なものを知り、生活に生かしていきましょう」とあります。

和服の文化では、浴衣の着付けを紹介し、実際に着た生徒たちの写真もあり、興味、関心を持ってそうです。

「手」を使ってやってみよう」では、結ぶ・編むが紹介され、蝶結びや指編みのアクリルたわしなど掲載されています。

巻末の「生活の課題と実践」では、単元ごとの課題例が提示され、学習を生かし、自ら課題を発見し実践できるようにしています。

災害から命と生活を守るために、防災・減災を日常の生活のスタイルにするということを学びます。

以上の点から、「開隆堂」を推薦します。

#### ○三留委員

家庭科は、「開隆堂」を推薦いたします。

今回の家庭科の教科書の特色は、どの者も自立と共生をテーマに教科書作りをしていることです。また、どの者も巻頭ページやガイダンスに工夫が見られます。

その中で、「開隆堂」は、自立と共生に関わって、家族・家庭・地域の生活について触

れたり、生活を見つめる視点としての見方・考え方を示したりしています。また、共生に関わりの深い、持続可能な社会に関わって、SDGsについても述べています。

ガイダンスでは、主体的・対話的で深い学びに関わって、どのような活動をすればよいのかを明確にしています。

「開隆堂」は、単元の導入のページの写真が大きく、興味を引くものが多いと思いました。

調理などの実習のページも、出来上がりと過程が分かりやすいと感じました。

ページのタイトルの下には、導入の活動が明示され、授業づくりにも生かせると思いました。

様々な単元の中で、「参考」というコラムがあって、関係する話題が載せられています。「話し合ってみよう」、「やってみよう」、「考えてみよう」、「生活に生かそう」などのコーナーも多く、主体的・対話的学習を意識していると思われます。特に、「話し合ってみよう」は、多くの単元に設けられており、様々な話合いの例を示しています。

中学生も被害に遭っているということで、これは深澤委員、高橋委員からもお話がありましたが、消費單元における消費者トラブルに関わる各者の記述を比較しました。

「開隆堂」は、「消費者トラブルはなぜ起こる」、「なくなる悪徳商法」、「消費者被害を予防する」という見出しの流れで、分かりやすく記述されています。その後、キャッチセールスに関わるロールプレイングの例を挙げ、続いて、悪質商法の主な例を図解で解説しています。さらに、次の見開きで、中学生の消費者被害を取り扱っています。消費者被害が低年齢化していることから、中学生が被害に遭わないために、自ら生徒に考えさせるというような記述もあります。私も「開隆堂」の消費者被害に関わるページは、今の中学生にきちんと学ばせておきたい内容が充実していると思いました。

各者の教科書の終わりには、「生活の課題を実践」、「学んだことを次に生かそう」のページがあります。「開隆堂」の「生活の課題と実践のページ」では、学習の流れに沿って、課題解決のための手だてが分かりやすく記述されています。「学んだことを次に生かそう」のページでは、学習したことを発展的に生かす多様な事項を掲載しています。どちらも、全体に学んできたことのまとめの内容としてよくできていると思いました。

以上が、「開隆堂」を推薦する理由となります。

## ○教育長

私も技術家庭の家庭分野については、「開隆堂」が良いと思いました。

「開隆堂」の家庭分野は、家族・家庭生活ということから始まっています。他者では、衣食住それぞれの話題から始まっているものがあり、最後に家族・家庭生活を学ぶことが多いと思います。

現在、家族や家庭を取り巻く環境が大きく変わっていると感じます。その中で、家庭分野を学習するときには、「開隆堂」のように、まず家族・家庭生活について自分の生活を見つめて、家族や家庭の在り方について考えを深めてから、次に衣、食、住というそれぞれの課題に取り組んだ方が良いのではないかと思います。

また、「開隆堂」は、幼児の発達や生活の理解、幼稚園・保育園での具体的な触れ合い方など、体験的な活動について内容が非常に充実していると感じました。

早いうちから、幼児と触れ合う体験というものは、親として家族や家庭生活を営む上で大切なことであると思います。また、保育園や幼稚園での職場体験に生かして取り組んでいけるのではないかと思います。

それから、「開隆堂」は、「家庭生活と地域とのかかわり」という単元で、地域とのつながりの大切さを学習する内容が充実していると思いました。地域に暮らす高齢者のとの交流など、大田区の地域力を支える視点を中学生のうちから持つことは、大切なことであると思いました。

それでは、審議のまとめをいたします。

技術・家庭（家庭）につきましては、「開隆堂」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

#### ○教育長

それでは、技術・家庭（家庭）につきましては、「開隆堂」といたします。

続いて、英語について審議いたします。英語の発行者は6者ございます。

それでは、委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

英語は、「三省堂」を選びました

1年生の冒頭では、小学校で学習したり、聞いたり、話したりしたことを振り返りながら導入するようになっていきます。

また、文字を正確に書くこと、本を見ながら単語や文章を書き写すことから始まり、徐々に見ないで書けるようになるように構成されていて、スムーズに英語に入っていくと思われました。

文章については、段階的に読む量を増やしながら読解力を高めていくようになっていきます。

英文の場面を補足するための挿絵、登場人物が描かれていて、内容を理解するのに効果的です。

さらに、本文の内容を理解するための写真が豊富で、図版も見やすく、生徒の関心を引くための工夫がされていると思いました。

各学年の巻末には、学習を通してできるようになってほしいこと（CAN-DOリスト）があり、各学年の到達目標も設定されています。常に到達目標が設定されているため、自分が今どのような状況にいるのかというのが分かるので、学習を進めるのに有効だと思いました。

巻末を中心に、各学年の資料が豊富で、コミュニケーション活動で利用できる語彙の補充、発音、語彙、文法など基本的・基礎的知識の整理、リスニングの音声のスク립ト、やり取りの表現例などの資料が多くなっています。

中学生の初めにつまずきやすい箇所では、1・2人称のbe動詞と一般動詞が挙げられ

ますが、比較しながら整理できるようになっています。

2次元コードでは、本文の音声の確認だけでなく、学びを深めるためのデジタルコンテンツがあります。

子音や母音を表す音を発音記号とともに、舌の動かし方、空気の出し方、口の形などを「発音図鑑」で詳しく解説しているところもすばらしいと思いました。この「発音図鑑」は非常に分かりやすく、十分利用できるものだと思います。

以上から、「三省堂」を選びました。

#### ○深澤委員

深澤です。

私は、英語については「三省堂」を推薦いたします。その理由は3つあります。

1つ目は、2020年から小学校5・6年生における英語が教科化されたことに伴い、小学校で学んだことを基礎に文法の規則を学ぶ段階である中学校1年生においては、小学校と同じ教科書を使用するのが良いと考えました。小・中の連携を図りやすいことを指摘する学校意見も多くありました。

2つ目は、「Get」、「Use」、文法のまとめの流れの内容に構成されており、従来のような文法に重点を置いた英語ではなく、英語をコミュニケーションツールとして位置付け、その理解のために文法を学ぶという視点で構成している点です。文法についても「文法のまとめ」が簡潔でありながら要領を得ているので、理解が難しい現在完了形や、関係代名詞なども分かりやすいと思いました。

3つ目は、題材の取り上げ方が子どもたちの興味を引くと考えたからです。

中学校1年生では、イギリス、アメリカ、日本のことを取り上げています。イギリス、アメリカは英語圏の代表的な国々ですので、イギリスの町の様子やアメリカの学校の様子を学ぶことで、生徒たちが英語を学ぶ意義を感じ取ってくれるのではないかと考えました。

3年生では、キング牧師の「I have a dream」や、第一次世界大戦中のクリスマス休戦を描いた「A moment of Peace」が掲載されています。民族の対立や人種差別が行われてきた歴史を題材とすることは、近時変化してきている世界情勢の中、グローバリゼーションを考える上でとても重要であり、かかる問題を英語で学ぶことにまた意義があるものと考えました。

以上の理由から、私は、英語については「三省堂」を推薦します。

#### ○北内委員

北内です。

英語に関しては、「三省堂」を推薦します。

私、大学院を修了してからすぐ、アラスカ大学に4年半くらい赴任しました。そのときに、最初に何が困ったかと言いますと、英会話は特に私「I」が言えなかったことです。私大阪出身なので、角のある言い方が嫌いで、Iというのはすごい自己主張が強く感じます。ですから、最初は受動態や「We」で濁していました。しかし、それでは意見がない人になってしまいます。それで、最初にすごい英語が嫌いになって、この時初めて言葉の

文化というものを学びました。

大田の子どもたちは、小学校から発表、プレゼンテーションとか、協働、関わり合いの学習をしているので、「三省堂」の1年生の導入の、実際に聞いたり、話したりするというのは、すごく親しみがあると思いました。

それから、生徒の興味につながる内容になっていると思います。登場人数も個性豊かです。

また、デジタル教材が充実しています。自学自習をすることができます。情報量も多くて、深い学びができます。

小学校で採択された出版社なので、生徒も馴染みやすいと思います。また、先生も連携を図りやすいと思いました。

具体的には、例えばディスカッションのシーンの図が設けられています。また、手紙の書き方や電子メール、招待状の書き方、ブログの書き方など、参考になると思います。

物語も充実しています。星の王子様やピーターラビット、アリスの話などがあります。また、社会問題や戦争、飢餓、これらを英語で学ぶのは意義があると私も思いました。

それから、SDGsの話が取り上げられています。水の大切さについても触れられています。さらに、日本文化、落語について英語で説明しているのも良いと感じました。

以上から、私は、「三省堂」を推薦しました。

#### ○高橋委員

高橋です。

英語は、「光村」を選びました。

2年生の「初めての一人旅」、「防災」、「職場体験」、3年生の「広島」、「AI」、「プラスチックごみ」など、教材が興味、関心を持てるものが多いです。導入は、「言葉で人とつながろう」として、ペアになる、対話的な活動で学習に入りやすいです。

単元ごとに目標を示し、聞き取る、読み取る、書くこと、話す学びをし、ゴールでは内容理解だけでなく、考えさせる工夫もあり、読解力、思考力、表現力が育成されます。まとめ、振り返りでは、ワーク活動ページで問題、設問から何ができたかを確認することができます。

「Unit」の構成は、扉に「話題を予測する。」、「話の大筋をつかむ。」、パートでは、「話の細部を読み取る。」、「場面に沿った練習をする。」、ゴールとして、「単元の目標となる言語活動に取り組む。」となっています。

「英語の学び方ガイド」では、1年生「まちがいをおそれずに。」、2年生「続けて行こう。」、3年生「まちがいを次に生かそう。」と上達のチャンスを示し、「確認しながら、できることを増やしましょう」と学びを促しています。

主教材を補強する教材として小教材があり、「Daily Life」は「日常生活の場面で英語を使う力を伸ばそう」、「World Tour」は「様々な国の文化に触れ、視野を広げよう」、「Let`s Read」は「様々な課題や形式の文に触れ、読み方を身につけよう」、「Active Grammar」は「言葉の使用場面と意味、形やルールを整理して、適切に使えるようにしよう」と学びに生かすことができます。「英語のしくみ」は語順、動詞、名詞、冠詞をイラストで分かりやすく示しています。



「英語の学び方ガイド」では、英語で電話をする、英語で注文をする、英語のポスターを読む、英語で日記を書く、外国の街を歩くなど、学びに生かされます。

文法は、オレンジ色のページに色分けがしてあり、シンプルにまとまっています。キャラクターのコメントで分かりやすく示されています。巻末の資料では、単語が場面別に掲載されていたり、教室で使う英語があったり、参考になります。

以上の点から、「光村」を推薦します。

### ○三留委員

英語は、「三省堂」を推薦いたします。

今回の英語の教科書は、小学校で「外国語」が教科化され、小・中・高の英語教育がグランドデザイン化されて初めての採択となり、小学校で一定の学習経験を積んだ生徒を指導するという前提の作りとなっています。小学校で 600～700 程度の単語に触れ、文や文構造についても学んできた新1年生の初期指導が大切になってきます。

どの者も1年生の教科書においては、初めに小学校で学んだ表現等を生かした学習を取り入れ、接続を図っています。

「三省堂」は、小学校の学習の振り返りとして、「Starter」というタイトルのページで、英語の文字と音について押さえた後、「コミュニケーションを楽しもう」ということで、小学校の学習と関連的な活動を取り上げています。内容も量も適切に感じました。その後、「Lesson 3」まで、小学校で聞いたり、話したりした語句の紹介と練習の示唆をしています。学校意見、区民意見の中にも、小・中の接続にかかわる構成、内容の良さについて指摘する意見がいくつか見られました。

また、「三省堂」は、冒頭に「教科書のしくみ」として、「理解する」、「活用する」、「分析する」、「振り返る」の流れを示し、各ページそれに沿った学習展開をしています。一貫した、「Get」と「Use」からなるレッスン構成は、学習しやすいと考えました。それぞれの内容のストーリーの組み方にも工夫を感じます。

単元の最終ページには、文法のまとめがあり、ポイントを押さえてまとめています。

今回の学習指導要領では、従来の4技能から、5領域へ変わりました。話すことが、やり取りと発表に分けられたためです。準備して話すことのできる発表と、場面・状況に応じて話すことのできるやり取りが分けられたためですが、この2つの内容もよくできていると思います。特に、これからの英語学習では、即興でやり取りする力をつける授業が大切になります。「三省堂」は、ロールプレイシートの活用など、生徒の技能習得のための工夫が見られます。

リーディング教材も、生徒の興味を引きそうな内容が多くあると感じました。

各学年の最終ページ、いわゆる表3にあたる箇所には、1年間の学習の中でできるようになってほしいことのリストがあります。自分の力で何ができるのか、このリストを活用していくことも大切と思いました。

さらに、多くのページに2次元コードがあり、本文の音声だけでなく、活動のモデルの動画など様々な学習情報を得ることができます。現場からは、2次元コードで学習しやすいとの声も挙がっています。

以上が、「三省堂」を推薦する理由となります。

## ○教育長

私は、英語は「三省堂」が良いと思います。

英語の学習では、先程北内委員がおっしゃったように、自分の考えを英語で発信するという機会を数多く設けることが大切であるかと思います。先日、小学校の6年生の英語活動を見てきました。その学校では、東工大の外国の留学生と毎年交流をしていますが、今年は、新型コロナウイルスの感染防止のため、留学生が日本に来ることができないので、オンラインで学校と母国にいる留学生とつながり、2人1組で学校内を回って、学校の様子を、タブレットを使って紹介するというものでした。小学校6年生は、学校の様子を英語で伝えようと一生懸命していましたが、英語で伝えるということの抵抗感はほとんど感じていないようでした。

これを見て、英語で自分の思っていることを伝えようすることで、英語のコミュニケーション能力は伸びていくということを改めて感じたところでございます。

英語で自分の考えを伝える活動という点では、「三省堂」の教科書が良いのではないかと思います。「三省堂」は、自分の考えを伝えるやり取りの学習が多彩で、小学校の英語の教科書でもあります。小学校で積み上げてきた英語で表現する活動の上に、中学校の学習内容を積み上げていくことが、生徒の英語力を伸ばすために有効であると思います。

英語の力も未来を創る力として、「おおた教育ビジョン」でその育成を図っているところでございます。中学校においては、外国語アシスタントによる英語の授業も増やしており、英語によるコミュニケーション能力をさらに充実するという意味で、「三省堂」が良いのではないかと思います。

それでは、審議をまとめたいと思います。

審議では、「光村」を評価する意見もございましたが、「三省堂」を評価する意見が多かったように思います。英語については、「三省堂」の評価が最も高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

## ○教育長

それでは、英語については、「三省堂」といたします。

続いて、道徳について審議します。道徳の発行者は7者あります。

委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

## ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

道徳の教科書は、「日文」を選びました。

区民の皆様方の多くの意見を読ませていただき、関心度の高さを十分感じ取ることができました。私自身が読み比べた結果、「日文」を推薦します。

教材として選択した本の内容が素晴らしいと思いました。

各学年で命の大切さ、いじめ問題に関する教材が大変充実していると思いました。

マザーテレサの「あふれる愛」、「ゆうへ 生きていてくれてありがとう」など、命の大切さ、「さかなのなみだ」、「むかで競争」など、いじめを考えるための1年生の教材として良いと思いました。

2年生では、「ハイタッチがくれたもの」ではいじめ問題を、「命を見つめて 猿渡瞳さんの六百四十六日」では命の大切さを考えて欲しいと思いました。「リスペクト アザース」では、アメリカ人と日本の文化の違いを経験した中学生の作文で、人権尊重について考える2年生にふさわしい教材であると感じました。あわせて、人権課題への取り組みを紹介したコラムも載っていました。

3年生では、いじめ問題だけでなく、国際社会へ羽ばたいていくための問題を教材にしています。リトアニアの外交官の杉原千畝の「命のトランジットビザ」、「臓器ドナー」、山中医師の「iPS細胞で難病を治したい」などが取り上げられています。また、山中医師から、「私の生き方」の中で、「目標に向かって努力を惜しまずに進んでください」との応援メッセージが書かれています。「風に立つライオン」でも、「私の生き方」のコラムで、さだまさしさんからのメッセージが載っていました。

プラットホームの「「いじめ」って何？」で、いじめの背景と心の状況からいじめの構造を分析しています。また、「怒りの感情と上手に付き合おう」では、怒りの静め方のスキルが書いてあり非常に参考となりました。

発問は、「考えてみよう」と「自分に+1」の2つで適当の量だと思いました。

道徳ノートが別冊になっていて使いやすかったです。特に中は自由に書くことができるようになっていて、人前で発言することが苦手な人にとっても、ノートになら自分の意見を自由に書くことができると思います。また、保護者記入欄が設けてあり保護者も子供の成長を確認することができ、学校と家庭の共通のツールとして使えると考えました。

新型コロナウイルス感染症の流行で、日本で生活をしている海外の子ども達がいじめを受けていると報道された時期がありましたが、このようなニュースが少なくなるように、教育現場の先生方には命の大切さ、いじめを受けた側、いじめた側の両方の気持ちを十分に理解し合うことの重要性、また生活習慣の異なる人々と国際的交流が盛んになった今、特に相手を思う気持ちを大切にしてもらいたいと思い、私は「日文」を選びました。

#### ○深澤委員

深澤です。

私は、「日文」を推薦いたします。その理由は3つあります。

まず、分冊の道徳ノートが付いている点です。

「日文」の道徳のノートには発問が記載されておられません。道徳の授業は指導する先生の発問の仕方によって、子ども達の発言や問い返し、授業の展開が変わってくると思いますので、発問を固定せず、ノートを自由に使うことができるところが良いと考えました。

学校意見でも、分冊の道徳ノートについて、使いやすく活用度が高いという意見が多く見られました。

2つ目は、新型コロナウイルスにより、世界で今なお多くの方が罹患している現状に鑑みて、命の尊さを実感し、生きていることへの感謝という観点からの題材として、今弘瀬委員も指摘された3年生で出てくる杉原千畝氏と、その次に出てくるエリカが大変良いと

思いました。

外務省の命令に背いてユダヤ人にビザを発給し続けた外交官である杉原氏の話では、人の命が国の組織や命令に優る尊いものであることを学びます。次の題材であるエリカは、強制収容所に送られるユダヤ人の夫婦が赤ちゃんの命を助けるために、汽車からエリカを外に放り投げる話です。エリカが母親の気持ちを推測する形式で話が進んでいくところは、前述のビザで命を救われた人との対比で、犠牲になったユダヤ人の命や気持ちについて深く考えさせられるところであり、これら2つの物語を通して、命の大切さについて多くの視点から考えたり、論じたりすることができると思いました。

3つ目は、教科書と道徳ノートに、「自分に+1」という記載がある点です。1年生で出てくる、「キャプテン翼」の作者が、漫画家を目指したけれどもなかなか人気が出ないため、様々な努力をしたという題材で、+1では「努力をするために大切なことはなんだろう」と問い掛けています。自分ならどう思うか、自分ならどうするかという視点を投げ掛けています。道徳で大切なのは、自分を見つめ、自分が納得できる答えを見つけて生き方につなげていくことだと思えます。「日文」は、教科書においてその視点を投げ掛けるとともに、道徳ノートの+1に自分の考えを自由に書くことができるところが良いと思えました。

以上の理由から、私は「日文」を推薦いたします。

#### ○北内委員

北内です。

道徳に関しては、「日本文教出版」を推薦します。

まずに、各学年最初に「いじめ」に関する題材を扱っています。その次に「道徳科で学ぶこと」で、「よりよく生きるために大切なこと」を明確に示しています。自分自身、人との関わり、集団や社会との関わり、生命や自然、崇高なものとの関わりとして明確に示しています。

それから、先ほど深澤委員からもありましたが、道徳ノートが別冊になっています。発問が記載されておらず、学校、生徒に適した課題設定ができるという点があります。

そして、適切な題材を選出し、多様な学びの機会を提供していると感じました。

具体的には、例えば、1年生の「裏庭でのできごと」は誠実な生き方、2年生「オーストリアのマス川」は規則を守ることに触れています。魚が解禁前に釣れてしまい、それを誰も見ていない中でリリースするかどうかという話で、リリースするのですが、世の中法律を破らなければ何をやってもいいかということ、そんなことはないと思えます。恥を知ることの大切さもありますし、誠実に生きることの大切さを教えてくれる題材だと思えました。

「キャプテン翼」の高橋さんのお話は、言葉が素晴らしいと思えます。「皆さんも好きなもの、夢中になれるものを見つけて頑張ってください」という、私が大好きな言葉です。

また、スポーツ選手からのお話も、生徒の興味を引くと感じました。

SDGsとして、2年生の「よみがえれ、えりもの森」があります。襟裳の土地開発がどんどん進んで海が汚染されていきます。その海を取り戻すために、森を作る話です。地

球環境の問題について、いろいろ考えさせられる題材です。

大田区関連として、「小さな工場の大きな仕事」で、社会への貢献という題材が紹介されて、大田区の子どもたちにぜひ読んでもらいたいと思います。また、羽田空港の新津さんの話「私は清掃のプロになる」というのも良いなと思いました。

以上から、私は「日本文教出版」を推薦しました。

#### ○高橋委員

高橋です。

道徳は、「日文」を選びました。

道徳ノートが付いており、「考えてみよう」、「自分に+1」など、生徒が考え、自由に記入するようになっています。

内容項目は、自分自身に関すること、人との関わり、自分への振り返り、集団や社会との関わり、生命や自然、崇高なものとの関わりがあり、読みやすく、資料も分かりやすいです。

「いじめに向き合う」では、いじめが起きる背景や自分や相手の心の動きについても学び、「みんなで考え議論してみよう」とあります。

「考えてみよう」では、みんなで考え、議論したい内容が示され、「自分に+1」は、これからの自分にどう生かすかを考えた内容になっています。

参考、プラットホームでは、学習内容の理解を助けるコラムがあり、考えや視野を広げることができます。学習の進め方、学習を深めるヒントがあり、「私の生き方」は、生き方のヒントや応援メッセージのコラムがあります。

2年生の「小さな工場の大きな仕事」は大田区の話で、お父さんの仕事を理解していく教材です。3年生の「銀メダルから得たもの」は、吉田沙保里さんが金メダルをとれなかったときに、金メダルより得られるものが多かったと感じたという教材です。「世界を動かした美」ヘップバーンの女優ではない一面を紹介した教材で、それぞれ学ぶことができます。

以上の点から、「日文」を推薦します。

#### ○三留委員

道徳は、「日文」を推薦いたします。

来年度は、中学校で「特別の教科 道徳」が完全実施となって、3年目となります。

教科として、道徳が生まれた大きなきっかけとして、全国で発生したいじめ問題・自殺の影響があります。いじめやいじめに関わる自殺に関する報道が未だに見られることから、いじめについては、道徳でしっかりと取り扱う必要があると思います。

どの教科書会社も、いじめについてきちんと触れていますが、各委員が話されたように、私も「日文」の取り上げ方が良いと考えました。

「日文」には、「いじめと向き合う」というタイトルで、各学年で漫画など多様な資料を用意して、学習を深められるようにしています。

例えば、1年生の「いじめって何？」というページでは、「いじめ」の構造が図で示されています。こうしたことを、中学校の当初で扱うことは、必要なことと思いまし

た。

「さかなのなみだ」など、優れた資料が掲載されています。いじめに関わることについては、繰り返し、ことあるごとに取り上げていくことが大切と考えています。

いじめとも関わりますが、コロナ禍における人権侵害も危惧されているところです。道徳の学習により、しっかりとした人権意識を持たせることも大切と思っています。「日文」の「公正・公平・社会正義」の資料では、法務省主催の「中学生人権作文コンテスト」の作品を活用して、人権課題に対する内容を扱っています。私も興味があつて、中学生の人権作文を読んでいます。人権に対して真剣に考え、課題解決のための様々な意見が表れていて、感銘を受けています。同世代の中学生の体験に基づく生の意見、考えであり、子どもに課題意識をもたせ、深く考えさせることのできる資料と思いました。2年生「リスペクト アザース」も中学生作文からとったものですが、区民意見でも「今に通ずるテーマがあり、生徒の心に響く」とか「人権やいじめを考える上で大変良い」など、評価する意見がありました。「リスペクト アザース」の後にある「プラットホーム」というページでは、世界人権宣言の紹介をし、子ども、男女共同参画等の人権課題についての取り組みも紹介しています。

「家族愛」の内容項目では、高齢者・障がい者に関わる家族について書かれています。高齢者・障がい者についての人権課題を解決していくことは、これから大切なこととなります。

生命尊重についても、各者できちんと取り上げています。東日本大震災に関わることや骨髄バンク・臓器移植の問題を取り上げるなど、各者に様々な工夫があると思いました。「日文」は、2年生「いのちを見つめて 猿渡瞳さんの六百四十六日」など、優れた資料が多く、こうした資料で命の大切さを学んでもらいたいと思いました。

また、「日文」は、学習の進め方という見開きページを設けて、問題解決的な学習の仕方や体験的活動を取り入れています。これらは、「特別の教科 道徳」が誕生した時に、従来の授業観から、多様な道徳の学習への転換を図るために示された授業の形です。生徒同士の議論や体験によって内容を深めていくと言うような学習のさせ方も必要と考えました。

例を挙げます。遵法精神・公德心の内容である「2通の手紙」という教材は、「日文」も含め、全8者で取り上げられています。動物園の入園時刻等の決まりを知りながら、事情のある幼い姉と弟を入園させた元さんというベテラン職員に、母親からの感謝の手紙と園からの懲戒処分の2通の手紙が来ると言うような内容の話です。

ここでは、学習の進め方のページで、問題をつかみ、議論するためのポイントが記されています。いきなり「決まりを守ることがなぜ大切なのか」と問うのではなく、元さんの行動や心情について、生徒同士で話し合うことを通して、決まりの意義に結びつけていくような構成です。教材によっては、問題解決的な学習を通じて、子ども同士で論議し練り上げるような展開が大切と思いました。

また、体験的な活動についても、役割演技で行う活動を各学年で紹介しています。

「国際理解・国際貢献」の内容項目では、杉原千畝、マララ・ユスフザイ、トルコ船エルトゥールル号を扱った作品がありますが、「国際都市おおた」、「多文化共生」を目指す大田区の生徒には知ってもらいたい内容と思いました。

さらに、北内委員のお話にもありましたが、「日文」には、2年生に大田区の工場を題材とした「小さな工場の大きな仕事」という教材があります。また、1年生に、羽田空港で清掃業務に携わる方を取り上げた「私は清掃のプロになる」があります。どちらも、「勤労」の内容項目において優れた教材と考えます。大田区で学ぶ生徒にとって、大田区を舞台とした勤労の話に触れるのも有意義ではないかと考えました。

別冊ノートについては、各委員から話がありました。これについては、賛否がありますが、「日文」のノートには改善が加えられており、区民意見、学校意見とも「使いやすいのではないか」、「保護者の意見欄があるのが良い」、「みんなと討論した内容をまとめるのに役立つ」など、肯定的な意見が多数見られました。前回の採択から、2年間活用してきて、現場の教師に受け入れられてきているものと感じました。

以上、総合して判断して道徳は、「日文」を推すことといたします。

#### ○教育長

私も道徳は、「日文」が良いと思いました。

まず、「小さな工場の大きな仕事」という大田区の町工場の教材ですが、高い技術を持って、仕事に誇りを持って誠実に仕事に取り組む父親の姿を改めて認めていくような話ですが、大田区の全ての中学生に、自分の職業や生き方を考える上で、学んでほしいと感じる教材であると思います。

また、羽田空港の環境マイスターの新津さんの「私は清掃のプロになる」という教材も、新津さんは中国の残留孤児で、日本に來られて非常に苦勞されたということですが、清掃で一生懸命、自分の仕事としても大きな価値を見出し、世界一きれいな羽田空港と多くの人から評価されるような仕事をされました。それでも、まだ自分の清掃に対する考え方を求め続けるなど、働くことの意味や態度を考える上で、大変に良い教材であると思います。

道徳の時間は、発問が非常に大切であるということもあります。「日文」の道徳ノートの学習課題が空欄になり、発問の設定がより教師や生徒に委ねられたということは、道徳指導をより深いものにしていくために大切なことであると思います。

道徳の授業をより良いものにしていくためには、教材に対する生徒の反応を踏まえた授業設計が大切ですが、「日文」の教科書を引き続き使うことで、道徳の授業をさらに充実することを期待したいと思っております。

それでは、道徳の審議はこれで終わりにします。

道徳については、「日文」が最も評価が高かったということによろしいですか。

(「はい」との声あり)

#### ○教育長

それでは、道徳については、「日文」といたします。

以上で、令和3年度使用大田区立中学校教科用図書採択の審議を終了いたします。

では、ここで約15分間、休憩を取りたいと思います。

( 休 憩 )

○教育長

それでは、教育委員会臨時会を再開いたします。  
日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第2は「議案審議」でございます。議案を読み上げます。

第35号議案 学校教育法附則第9条の規定に基づく令和3年度使用特別支援学級教科用図書採択についてでございます。

なお、昨日からの教科書採択の審議を受けて、議案の追加提出がありました。

第36号議案 令和3年度使用大田区立中学校教科用図書採択についてでございます。  
ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○教育長

それでは、議案の審議に入ります。

昨日、第7回定例会及び本日の臨時会の2日間でご審議いただきました、中学校教科用図書採択に関する追加議案、第36号議案から審議したいと思います。

では、第36号議案について、事務局から説明をお願いします。

○教育総務課長

私からは、第36号議案 令和3年度使用大田区立中学校教科用図書採択について、説明いたします。恐縮ですが、着座にて説明させていただきます。

令和3年度使用大田区立中学校教科用図書については、7月21日の第6回教育委員会定例会において、教科用図書調査委員会委員長及び副委員長から調査報告をいただき、昨日の第7回定例会及び本日の2日間にわたりご審議をいただきました。

ここで、本案を議案として提出し、令和3年度使用大田区立中学校教科用図書の採択をお願いしたく存じます。

中学校教科用図書の一覧につきましては、次のとおりでございます。順次、種目、発行者、書名の順で読み上げさせていただきます。

国語、光村図書出版、「国語」。

書写、光村図書出版、「中学書写」。

社会、地理、帝国書院、「社会科 中学生の地理」。

社会、歴史、東京書籍、「新しい社会 歴史」。

社会、公民、東京書籍、「新しい社会 公民」。

地図、帝国書院、「中学校社会科地図」。

数学、東京書籍、「新しい数学」。

理科、東京書籍、「新しい科学」。

音楽、一般、教育芸術社、「中学生の音楽」。

音楽、器楽、教育芸術社、「中学生の器楽」。



美術、日本文教出版、「美術」。  
保健体育、学研教育みらい、「中学保健体育」。  
技術家庭、技術分野、開隆堂出版、「技術・家庭 技術分野」。  
技術家庭、家庭分野、開隆堂出版、「技術・家庭 家庭分野」。  
英語、三省堂、「NEW CROWN」。  
特別の教科 道徳、日本文教出版、「中学道徳 あすを生きる」。  
以上でございます。

○教育長

令和3年度使用大田区立中学校教科用図書について、ご意見はございますでしょうか。よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、第36号議案につきまして、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、第36号議案について、原案どおり決定いたします。  
次に、第35号議案について、事務局職員の説明を求めます。

○教育総務課長

第35号議案 学校教育法附則第9条の規定に基づく令和3年度使用特別支援学級教科用図書採択について、説明させていただきます。

大田区教科用図書採択要綱第14条には、「区立学校に設置されている特別支援学級で使用する教科用図書については、区立学校の通常の学級で使用する教科用図書を使用する。2 前項の規定にかかわらず、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を使用する必要があると教育長が認めた場合は、特別支援学級設置校の校長会が審議し、適切と考える教科用図書を教育委員会へ報告する。」とあります。

なお、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択期間については、児童・生徒の実態に、より一層対応した教科用図書を選定するために、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第14条」の規定からは除外されており、4年間によらず採択しているものです。

教科用図書の選定については、指導課長からご説明をさせていただきます。

○指導課長

特別支援学級で使用する教科用図書の選定について説明します。

各設置校の児童・生徒の障害の種類・程度、能力・特性に最もふさわしい内容、文字、

表現、挿絵、取り扱う題材であること、可能な限り、系統的に編集されており教科の目標に沿う内容をもつこと、特定の教材若一部の分野しか取り扱っていない図書、参考書、図鑑類、問題集等は除くといった観点の下、特別支援学級設置校の校長会が、東京都教育委員会の特別支援教育教科書調査研究資料、各設置校の意見を踏まえた上で、適切と考える教科用図書として選定いたしました。

選定された図書の一覧は、別紙のとおりです。ご覧ください。

○教育長

それでは、学校教育法附則第9条の規定に基づく特別支援学級使用教科用図書について、意見はございますでしょうか。

○三留委員

三留でございます。

特別支援学級で使用する教科用図書については、東京都教育委員会の特別支援教育教科用図書調査資料の内容及び考え方に基づいて、選択をされています。この調査研究資料は、児童、生徒の状況、特性を考慮した一定の規定により作られております。現場で日々、児童、生徒の指導にあたっている教師の意見を踏まえて、特別支援学級設置校長会では、適切と判断してリストが作成されています。それぞれの図書が適切に選択されており、これを尊重したいと思えます。

○教育長

ほかにご意見、ご質問ありますでしょうか。よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、第35号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

第35号議案について、原案どおり決定いたします。

これをもちまして、令和2年第2回教育委員会臨時会を閉会します。

(午後4時58分閉会)